

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590700138		
法人名	社会福祉法人 元気の会		
事業所名	グループホーム 元気		
所在地	下松市大字山田257番地		
自己評価作成日	令和4年2月17日	評価結果市町受理日	令和4年6月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
調査実施日	令和4年3月25日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームらしく入居者が穏やかで自分らしい生活を送れる事を目標としている。日々の生活の中で、少しでも出来る事を発見し継続していけるように関わっている。職員同士も情報交換を積極的に行い、入居者が役割を持って活動出来る環境作りを行っている。感染予防対策のため外出レクリエーションは難しくなっているが、花見や紅葉狩りなど感染リスクを考慮しながら季節を感じてもらえるように取り組んでいる。施設内のレクリエーションもその季節に応じた行事を行い、楽しい時間を過ごせるようにしている。オンライン面会を実施し入居者とご家族の関りを継続している。食事は併設施設で調理を行い、温かい物・冷たい物を美味しくいただけてもらえるように提供している。健康管理も常勤看護師とかかりつけ医、かかりつけ薬局で連携を取りながら行っている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域密着型サービスの意義をふまえた理念を基に、利用者の思いや意向の把握に努められ、利用者一人ひとりの楽しみ事や気分転換の場、生活の役割や活躍出来る場面を作っておられます。コロナ禍で面会や外出制限のある中、初詣、節分、お花見、七夕会、スイカ割り、花火大会、納涼会、敬老会、鍋パーティー、しめ縄作りなど季節行事を工夫して楽しんでおられます。法人の管理栄養士が、年1回の利用者嗜好調査や毎月の給食会議での意見を参考に利用者の好みを反映した献立を立てられ、三食とも法人の厨房で栄養バランスのとれた食事を提供されています。季節の行事食、おやつ作り、誕生会のケーキ、お花見でのおつまみやノンアルコールビール、アイスクリームを楽しむ納涼会、自販機で好みのジュースを買うなど食べる事を楽しむ支援を工夫されています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内に法人の理念・グループホームの目標を掲示し、常に確認できるようにしている。ユニット会議時などサービスについて話し合い、理念の共有・実践に努めている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所の理念を重要事項説明書に記載すると共に事務所内とホールに掲示して、職員は常に目にしている。ミーティング時に理念を振り返りながら、実践につなげている。理念の中でも特に利用者が生活の役割や生きがいを見いだせるように支援に力を入れている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在は感染予防のため参加をしていないが、自治会に加入し除草作業や公民館での行事に参加していた。現在も自治会に加入しており、地域からの回覧を受けつながりを持っている。	自治会に加入し、地域の情報を掲載した回覧板を回している。コロナ禍で地域や事業所の行事は中止となり、ボランティアの来訪や中学生の体験学習も休止している為、地域の人との交流の機会がない。感染状況を考慮しながら訪問理容の利用は続いている。散歩時に地域の人や法人併設の児童クラブの子供達と挨拶を交わすなど交流している。地域住民対象に認知症カフェを開催し、法人の施設で当番を回しているが、職員のみが参加している。地域との交流は少なくなっているが、地域行事を確認するなど、繋がりを大事にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月に1回認知症カフェを開催し、地域の方に参加して頂いている。現在は感染予防のため入居者は参加していないが、認知症に対する理解をしてもらえるように実施している。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	ミーティングの際に外部評価について管理者から職員に現状と合わせて説明を行っている。サービス向上につながるように意見を出し合い、意識を高めるようにしている。	管理者と計画作成担当者がミーティング時に評価の意義を説明している。ミーティング時に聞き取った職員の意見を参考に、管理者と計画作成担当者が話し合っまとめている。初期対応の訓練、運営推進会議の議事録の活用、内部研修の充実、評価の意義の理解、災害時の地域との協力体制の構築を目標達成計画にあげ、出来る事から改善に向けて取り組むように努めている。	・全職員の評価の意義の理解と活用

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は感染予防のため、2か月に1回運営推進委員会へ書面による活動報告を行っている。報告後、委員より書面で活動内容についての意見をいただき、サービス向上につながるよう職員に報告を行っている。	会議は併設施設と合同で2ヶ月毎に開催し、この1年間は文書開催としている。委員に利用者の状況や活動予定・報告、ヒヤリハット・事故報告、外部評価結果、事業所便り、身体拘束廃止委員会の報告等の資料を送り、意見や要望を送付してもらっている。委員からは支援の成功事例の振り返りや転倒防止の提案など意見があり、業務に活かしている。議事録は委員に送付すると共に職員間で回覧している。	・議事録の工夫
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居者や入居申込者について、問題などあれば相談を行っている。必要時には市の担当者を直接訪問し、協力を依頼している。	市の担当者とは、電話や直接出向いて利用状況の報告や入居者の相談、情報交換するなど連携を図っている。地域包括支援センターとは、運営推進会議時に助言を得たり、入居状況の確認など、日頃より連絡を取り連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2ヶ月に1回、併設施設と合同で身体拘束防止委員会を開催している。参加した委員がユニット会議の際に、他の職員に研修報告を行い理解に努めている。	職員は身体拘束や虐待について内部研修で学び、法人施設と合同で開催される身体拘束廃止委員会に委員が参加して報告し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックに気づいた時は管理者や主任が注意したり、ミーティングで話し合っている。利用者が外に出たい場合は職員と一緒に出かけた時、本人の話をよく聞いて不安を軽減出来るように支援している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と合わせて虐待防止についても適宜、研修報告を行っている。身近に虐待につながる事例がないか、ヒヤリハット報告書にするなど職員同士で情報共有を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている入居者がおられるため、利用者の対応も含めて職員に理解してもらうように説明している。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や改定時は文書に基づき対面説明にて、入居者・ご家族に理解と同意がいただけるようにしている。医療連携や重度化・看取りについても同様に行っている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族に定期的に連絡を行っており、その際に意見や苦情などあれば、その都度うかがい、サービス向上や運営に反映出来るように職員と共有・確認を行っている。	相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に家族に説明している。面会時や電話時、受診時、介護計画作成時に家族から意見や要望を聞いている。2ヶ月毎に事業所便りで利用者の様子を伝えたり、些細な事も電話で連絡して、家族が意見を言いやすいように工夫している。個々のケアや対応についての要望にはその都度対応している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のユニット会議に管理者は必ず参加し、職員の意見を確認している。年に2回は必ず個人面談を行い、意見や提案を聞くようにしている。	管理者や主任は、毎月のミーティングや日常業務の中で職員の意見や要望、提案を聞いている他、管理者が年に2回個人面談を行っている。理事長が事業所を訪問して利用者や職員と話して状況を把握している。物品管理の見直しや勤務体制の見直しなど職員からの提案や意見を反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	理事長が適宜、リーダーとの面接やユニット行事に参加し個々の状況把握をしている。サービス向上につながるように、理事長の意向がリーダーから職員に伝わるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	<p>○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>必要時に適宜、ケアについての研修やケア方法の見直しを行っている。併設施設と連携し、介護技術のトレーニングを実施している。</p>	<p>外部研修は職員に情報を伝え、参加の機会を提供している。この1年は実践者研修、管理者研修、感染症予防研修、災害研修に参加している。研修後は研修報告書を作成してミーティングで報告し、書類は回覧している。法人研修としてメンタルヘルスチェックを実施している。内部研修は、計画作成担当者が講師となって、身体拘束、虐待、記録のポイント、感染、褥瘡、マナー、接遇、認知症の理解、事故防止などをテーマに開催し、参加者も欠席者も施設長に報告書を提出している。新人研修は、法人のマナー研修の後、日常業務の中で指導している。資格取得については研修に参加しやすい勤務体制の変更や支援金制度など働きながら学べるよう支援している。</p>	<p>・内部研修の充実</p>
15		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>法人内外の研修に参加を勧め、研修が受けやすいように研修日の調整を行っている。</p>		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		<p>○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前に本人・ご家族と面談を行い、本人の不安な事や困っていることなど丁寧に傾聴し、信頼関係を築きながら入居の話をするようにしている。</p>		
17		<p>○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居前に本人・ご家族と面談を行い、ご家族の意向や本人に対しての思いなど具体的に話し合い、気持ちに寄り添い信頼関係を築くように努めている。</p>		
18		<p>○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居前の面談でその時に利用しているサービスの状況把握を行い、入所の際に必要なサービスを実施し導入している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃から行っている作業(掃除や洗濯たたみ、テーブル拭き、ゴミ捨てなど)を一緒に行う事で、一日の役割や生活の流れを感じてもらおうようにしている。職員も感謝の気持ちを伝え、出来た事を共感している。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在は感染予防のため、ご家族の来所が難しいがオンライン面会や日頃の様子を写真でたよりにして郵送し、絆を保てるように努めている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方からの年賀状や手紙が来た時は、一緒に読んで関係の理解が出来るようにしている。年賀状を出したり返事の手紙と一緒に書いたり、オンライン面会を行って関係保持に努めている。	コロナの感染状況に応じて、家族2人まで15分以内の面会や窓越し面会、オンライン面会をしている。家族や親戚の来訪の他、馴染みの訪問理美容師の来訪がある。家族に年賀状を書いたり、手紙の返事を一緒に書いたり、電話の取り次ぎを支援して、馴染みの人や場所との関係継続の支援をしている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の程度で関りやすい入居者同士の関係を促したり、関りが難しい方には職員が関係調整に入り一緒に作業を行うなど孤立しないようにしている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当施設でのサービス終了時にはサマリーを作成し、継続した介護支援につながるようにしている。また、退所後も必要に応じて様子を確認し、困っている事などないか聞きフォローを行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	引き続き、センター方式の「私の姿と気持ちシート」を作成して、本人の気持ちを理解し本人本位になるようにしている。職員間で情報提供を行い、情報を追加していき気持ちの理解につなげるようにしている。	入居時のフェースシートやセンター方式のシートを活用している他、日々の関わりの中で利用者の行動や言葉、表情などを介護記録に書き留めて、思いや意向の把握に努めている。把握が困難な場合は、家族や関係者から聞き取り、職員間で話し合っ本人本位に検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人やご家族、担当ケアマネから生活歴や家族歴、生活環境などについて聞き取りを行っている。入居後も本人やご家族、担当ケアマネと連携し、情報把握に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の一日の生活の様子を記録に残し、心身の状態や有する力等の現状把握に努めている。変化があれば速やかに申し送りを行い、職員同士で情報交換を行って現状把握を行っている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議の際に入居者一人一人の状況とケアについて等、担当者から意見を出してもらい職員間で話し合いを行いモニタリングを行っている。ご家族にも話をする機会を設け、現在の介護計画についてや状況の報告をしている。	計画作成担当者と担当職員が中心になって暫定プランを作成し、家族の意向、主治医、看護師、薬剤師、栄養師の意見を参考にミーティングで話し合い、介護計画を作成している。毎月のミーティング時にモニタリングを実施し、半年ごとに見直しをしている。利用者の状態に変化があるときはその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録はタブレットで行い適宜写真も付けて伝わりやすいようにしている。就業前に申し送りとして、タブレットの記録を確認し情報収集を行い、入居者のケアに活かせるようにしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	それぞれのニーズを把握しニーズに答えられるように、職員間でミーティングを行っている。歩行できないが畑の作業を希望された方には、プランターに種まき等小さなことでも答えていけるようにしている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は感染予防のため、地域資源のボランティアの方との行き来が難しい状態である。以前はボランティアの方々に訪問に来てもらったり、地域の行事に参加させてもらったりしていた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>常勤看護師が24時間連絡をとれるようにしており、異常時には速やかにかかりつけ医に相談を行うようにしている。日々のケアの中で身体観察を行い、異常の早期発見に努めている。</p>	<p>利用者や家族が希望する医療機関をかかりつけ医としている。協力医療機関からは月1回の訪問診療があり、受診後は家族に報告している。かかりつけ医や他科受診は家族が支援しており、必要時には情報提供書を渡している。受診結果は介護記録に記録し、申し送りで共有している。希望者は訪問歯科診療や口腔ケアを受ける事ができる。夜間や緊急時には24時間看護師と連携し、かかりつけ医の指示を得て適切な医療が受けられるよう支援している。</p>	
32		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>気になる事やいつもと違うと感じた事があれば記録に残し、常勤看護師に報告し適切な対応がとれるようにしている。</p>		
33		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入居者が入院をした時にはサマリーを作成し、安心できる加療にするために入院先に情報提供を行っている。早期退院につながるように、入院中も相談員やご家族とも連絡をとり状況の把握を行っている。</p>		
34	(14)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>契約時に重度化した場合や終末期のあり方について書面を用い本人・ご家族に説明と意向の確認を行っている。職員間でミーティングをし、状況を把握しながら意向に沿っているか確認を行う。適宜、ご家族やかかりつけ医にも相談し意見を仰いでいる。</p>	<p>重度化した場合や終末期に事業所ができる対応について、契約時に家族に説明し、「終末期の意向確認書」により同意を得ている。実際に重度化した場合は、利用者の状況の変化に応じて主治医の意見を聞き、家族と話し合い、入院や移設も含めて方針を決め、職員で共有して対応している。</p>	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	転倒、誤薬、行方不明等の対応マニュアルに沿って、緊急時も対応が出来るように研修を行い周知するようにしている。ヒヤリハット報告書や事故報告書を元にミーティングで事故防止策を検討し実施している。AEDの使用方法や急変時の対応等研修を行っている。	対応した職員が、ヒヤリハット報告書、事故報告書に発生状況や対応、家族への連絡などを記録し、他の職員には申し送り周知し、報告書を回覧している。事故対策委員会に報告したり、ミーティングで再検討して再発防止に取り組んでいる。内部研修でAEDの使い方や緊急時の対応(意識消失時の対応、バイタルや呼吸状態の確認、転倒、血圧の変化など)を事例を元に学んでいる。応急手当や初期対応のマニュアルをホール内に設置している。	・全職員が実践力を身につける為の応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼間と夜間を想定した火災時の避難訓練を年2回実施している。定期的に備蓄食や防災備品の確認を行い、備蓄食は調理や試食も行い非常時に速やかに対応できるようにしている。	年2回(うち1回は消防署の協力を得て法人と合同で)、昼夜を想定した通報、消火、避難訓練を利用者も参加して行っている。消防署からは、併設施設の職員間の連携を図るように助言を得ている。訓練を実施して、認知症の方への声のかけ方を課題と捉えている。水、3日分の食料品、マスク、手袋などの衛生用品、懐中電灯などの備品を用意している。	・地域との協力体制の構築
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の生活歴や職歴など状況を考慮し、プライドを傷つけないよう声掛けを行っている。業務に追われる際に不適切な言動があれば、職員間で事例として取り上げ注意をさせるようにしている。	職員は年2回の研修で学び、利用者の人格を尊重し、人生の先輩として尊敬し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。排泄介助や入浴介助は1対1で支援している。不適切な対応がみられた場合は管理者や主任が注意したり、ミーティング時に事例を挙げて話し合っている。書類の保管には十分に配慮し、守秘義務は遵守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の生活の中で本人の思いや意思が表現しやすいように声掛けを行う。自分で意思決定が難しい入居者には、答えやすいように促し思いを引き出すように声掛けをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活ではあるが、食事の時間以外は個々の生活のペースを尊重した支援を行っている。生活のリズムが保てるように活動参加を促しているが、ペースは本人の希望を優先している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回、理美容の訪問があり利用している。希望があれば毛染めもしており、いつまでも自分らしくありたいという思いを支援している。外出時には女性は化粧をされる方もおられ、おしゃれを楽しんでいただいている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は併設施設の管理栄養士が献立をし、同施設の厨房より提供を受けているため適切な温度での配食を行っている。入居者に嗜好調査を行い、喜んでもらえるように配慮している。テーブル拭きや食器洗いなど出来る事を一緒に行っている。	法人の管理栄養士が年1回利用者に嗜好調査を行い、毎月の給食会議の意見を取り入れた献立を作成している。法人の厨房で3食とも調理し、適切な温度で配食している。利用者の状態に応じてキザミ食、とろみ食、ソフト食など食事形態を工夫している。利用者はスプーン並べ、テーブル拭き、下膳、食器洗いなどできる事を職員と一緒にしている。季節の行事食(おせち、七草粥、節分の巻き寿司、ひな祭りの散らし寿司、七夕のソーメン、敬老会、クリスマス、鍋パーティー、年越しソバ)やおやつ作り(ホットケーキ、白玉団子、汁粉、甘酒、焼き芋、芋きんとん、たこ焼き、おはぎ、ゼリー)、誕生会のケーキ、おつまみやノンアルコールビールを楽しみながらのお花見、玄関でアイスクリームを食べる納涼会、自販機で好みのジュースを買うなど食事を楽しむ支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量や栄養バランスは併設施設の管理栄養士に助言をもらい管理を行っている。1日の食事の状態は記録に残し、継続した観察が行えるようにしている。個々の状態に合った食事を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行ってもらう。自分で出来ない入居者は職員がケアを行っている。週3回義歯の消毒を行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄記録メモを取り、一人一人の排泄状態を把握し、声掛けや誘導を行うようにしている。本人からの訴えがある時には、出来る事は行ってもらうようにペースに合わせた支援をしている。	排泄チェック表を活用して、排泄パターンを把握し、一人ひとりに応じた声かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録を確認し、定期的な排便があるか確認をしている。便秘の際は、かかりつけ医からの指示に従って対応している。水分をしっかり飲んでもらう事や体を動かすことなど介護支援も行っている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的には入浴表に沿って週2回は入浴できるように支援している。本人の気分や状態で日にちや時間を適宜調整している。入浴が出来ない時には清拭や更衣をしてもらい、少しでも爽快感をもってもらえるようにしている。	毎日10時から12時、14時から16時の間可能で、利用者の希望や体調に合わせて2日に1回は入浴出来るように支援している。利用者の状態に合わせて、シャワー浴や足浴、清拭での対応をしている。入浴したくない利用者には足浴や着替えから始めたり、日にちや時間をずらしたり、声かけを工夫して入浴出来るように支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	固定した就寝時間は設けていないので、一人一人がリズムや体調に合わせて就寝している。気持ち良く眠れるように室温や掛物調整など環境調整を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在内服している薬を職員が直ぐに確認できるようにファイルに入れて、見やすい場所にて管理している。その都度、薬の内容や効能、用法等確認できるようにしている。服薬変更時は看護師から職員に変更理由と内容を申し送る。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、一人一人の生活歴や力に合わせて洗濯たみやテーブル拭きなど、本人の様子に合わせて行ってもらっている。それぞれの好みに合ったレクリエーションを気分転換に行っている。	テレビ(歌、お笑い、相撲、野球、子供・動物番組)やDVD(テレビ録画)の視聴、新聞、本、雑誌、絵本、広告を見る、塗り絵、貼り絵、トランプ、カルタ、季節の作品作り、歌、テレビ体操、ラジオ体操、口腔体操、輪投げ、風船バレー、ボール遊び、お手玉遊び、魚釣りゲーム、季節の行事、おやつ作り、法人施設のお楽しみ会(サロンド元気)への参加、散歩や花見等を楽しみ、洗濯物干し、洗濯物たみ、モップかけ、ゴミ捨て、ゴミ袋作り、スプーン並べ、テーブル拭き、下膳、食器洗い、10時のコーヒータイムの手伝いなど活躍出来る場面づくりを支援して、利用者が喜びや張り合いのある日々を過ごせるように取り組んでいる。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は感染予防のため買い物レクは行えないが、施設周囲を散歩したり公園で花見や紅葉狩りなど季節に応じた外出を行っている。個々の希望を聞きながら、花見の際にはおつまみやノンアルコールビールなど提供し雰囲気を楽しめるようにしている。	施設内の散歩、玄関外でのおやつ、ベランダでの外気浴、ゴミ出し、花見(桜、菜の花、コスモス、紅葉)、初詣(元気神社)、家族の協力を得ての受診など、コロナ禍で制限のある中、戸外へと出かけられるよう支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名の方が現金を持ち込まれてるが、現在は感染予防のため買い物に出かけられていない。以前は職員と買い物に出かけ、必要な物を個々で購入してもらっていた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族より電話がかかってきた時には出ていただいたり、希望によってはオンライン面会でやり取りを支援している。年賀状を出して返事をもらい手紙のやり取りが出来ている方も数名いる。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングはそれぞれがゆっくり過ごしていただけるように窓側にテレビとソファを置き、明るく開放的な雰囲気になるようにしている。湿度・温度計をリビングや各居室に置いており、適切な温度と湿度で過ごしていただけるようにしている。	玄関には季節の作品、職員の写真、事業所便りを貼って来訪者が楽しめるようにしている。リビングは明るく広々としており、テーブルやイス、テレビやソファを配置して利用者が思い思いに過ごせる居場所づくりをしている。壁面には利用者が職員と一緒に作った季節の作品や利用者の作品、行事の写真が掲示しており、季節感が感じられる。キッチンからは食事の匂いや調理の音が聞こえて生活感がある。温度や湿度、換気や消毒に配慮し、利用者が居心地良く過ごせるように支援している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間はリビングと食堂に分かれており、それぞれが好きな場所に座って過ごしている。リビングのソファで談笑されたり食堂のテーブルで塗り絵をして過ごしたり、個々での過ごし方が出来るようにしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前より使用していた馴染みの家具や持ち物を本人が使いやすいように設置し、馴染みの場所になるようにしている。入居中の行事の写真や作品など飾り、居心地の良い空間作りに努めている。	テレビ、整理タンス、衣装かけ、テーブル、イス、洋服ラック、三面鏡、加湿器、寝具、衣類、携帯電話、化粧品、鉢植え、ぬいぐるみなど使い慣れた好みのものを持ち込んでいる。壁には家族の写真や誕生日の色紙、自分の作品を飾って、居心地良く過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の「できること」「わかること」をセンター方式にて情報として共有し、安全面に配慮している。掃除やゴミ捨て等一緒に行いながら、自立した生活につながるようにしている。		

## 2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム元気

作成日: 令和 4 年 6 月 20 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35 (1 5)	緊急時にはマニュアルに沿って対応できるように研修を行っているが、全員が一定の実力を身につけるまでには至っていない	事故防止や事故発生時の対応について、全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけて適切な対応が出来る	応急処置や初期対応について定期的実践を含めた研修を実施し、全職員が適切な対応が出来るか確認を行う	12ヶ月
2	14 (9)	毎月1回内部研修を行っているが、職員からの自発的な研修がみられない	職員から自発的な研修を行う事ができ、研修に対する意欲の向上につなげる事ができる	月に1回に研修で、学んでみたいことや他の職員に伝えたいことを研修として計画し、研修内容の充実につなげる	12ヶ月
3	5 (4)	運営推進会議や各委員会の議事録を事業所内で文書の回覧としているが、全部の内容を回覧では伝えられていないところがある	運営推進会議や各委員会の内容について、回覧以外でも職員に報告し活用できるように工夫することができる	会議の記録を回覧する際には、内容が確認しやすいようにまとめ、ミーティングの際に具体的な内容の報告を行い、その後の介護に活かせるようにする	12ヶ月
4	4 (3)	自己評価について職員間の理解が乏しく、評価を介護の現場に活かす事が出来ていない	自己評価の内容について職員が周知することができ、意識して介護の現場に活かすことができる	外部評価の内容についてミーティングの際に職員全員が周知出来るように伝達し、その後の介護に活かせるようにする	12ヶ月
5	36 (1 6)	感染対策の影響もあり、災害時の地域との協力体制が出来ていない	法人内の併設施設との協力体制を維持し、近隣住民との協力体制が構築できるようにする	地域の方に認知症カフェなど施設の行事に参加してもらい、施設に対する理解をすすめて災害時の協力体制の構築につなげていく	12ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。